

核兵器禁止条約の
批准を求めて

さっぽろ平和行動実行委員会（被爆者協会も加盟）は、10月1日札幌市に対して「日本政府は核禁条約締約国会議（来年3月）に参加を」の意見書をあげてほしい、と陳情しました。

財政市民委は3人の委員が賛成意見を述べるも結局「継続審議」扱い。札幌市は来年平和都市宣言30周年を迎えます。核兵器廃絶をめざす立派な宣言があるのに残念です。なお陳情に先立って被爆者と二世も参加し市役所前で市民に核兵器廃絶のための訴えを行いました。



また10月24日からの国連軍縮週間に合わせ、北海道原水協は27日JR札幌駅南口広場で「核兵器禁止条約に参加する政府を」と訴えました。被爆者協会の廣田凱則会長代行も参加し、日本政府の国連決議案には核禁条約のことが一言も触れられていないと批判し、橋渡しと言うならまず締約国会議に参加して批准国の意見を聞くべきだと訴えました。

お知らせ

12月～3月まで、被爆者協会とヒバクシャ会館 は週3日（月～水）の営業、12月23日～1月10日はお正月につきお休みとさせていただきます。

コロナの感染拡大防止に配慮しながら、生徒や学生が被爆者の話を聞いたり会館を訪れて学習したりしています。ここでは二つの感想を紹介します。

常盤中学校2年生（9・17）

思い出すことはすごくつらいことなのに、私たち後世の世代に伝えてくれて、戦争というのがいかに恐ろしいものか分かってよかったです。（IK）

この学習をして、知識が少ないことがわかったので、歴史を勉強して平和や自由についてもっと考えられるようにしていきたいと思えます。（AA）

お話を聞いて戦争は絶対してはいけないと学びました。戦争を



幌東小学校で話す松本郁子さん 11/12

しないためにも、自分たちは何をするか、どう行動するかをもっともつと考えていこうと思えました。（NA）

「常盤中学の2年生は2時間の事前学習をしており、みんな真剣に聞いていたといえます。話をした大村一夫さんは質問を書きたくれたすべての生徒に返事を書きました。」

生徒・学生の感想

被爆者が生徒に丁寧に返信

中央相談事業講習会参加学生

（11・3）

今まで原爆に興味はあっても、知識のないまま興味本位で足を踏み入れていい事柄だと思ってお

らず、知ろうとすることをずっと躊躇していました。本日、この機会に参加させていただきました。非常に勉強になりました。（A）
被爆当事者や被爆二世の方々の話を聞いて感じたことは、僕達のような若い世代にも積極的に史実を知ってほしいということだ。……むしろ、僕の周りを見渡



してみると世の中の出来事に無関心な若者が多いような気がしています。そのような世代に、どうやって史実を語り継いでいくのかは大きな課題の一つであり、僕も考えていきたいと思えます。今後はヒバクシャ会館に行き、そしていづれは広島や長崎に足を運び、まずは自分の目で現実を見に行きたいです。（IF）
「学習会には7名の学生が参加した。一人の学生が2年前にある被爆者の話を聞き自分が受けてきた差別と一緒だと思った。多くは彼の参加呼びかけに応えた仲間である。被爆者の体験と運動は彼らの新しい力になるに違いない。」